

令和4年度 農林水産業版タウンミーティング（水産業版）会議概要

日 時：令和5年2月8日（水）14：00～15：30

場 所：青森市北部地区農村環境改善センター 会議室

参加者数：9名

市側出席者：市長、農林水産部長、環境部長、農林水産部次長、中央卸売市場長、
環境部次長、水産振興センター所長、中央卸売市場管理課長、清掃管理課長

■昨年度いただいたご意見への対応状況

⇒ 配付資料のとおり

■主なご意見・要望等

○平成24年からホヤ養殖を始めたが、近年は食害や稚ボヤのへい死などにより種苗数が減少し、生産が安定しない状況となっている。このままでは、生産量の減少及び養殖に取り組む漁業者の減少が危惧されることから、改善に向けて一層の協力をお願いしたい。

⇒ 近年、水産振興センターへ稚ボヤの種苗数減少について相談が寄せられていることから、養殖施設周辺に集まる魚類の胃の内容物の確認や、中間養殖から本養殖への移行時期をずらすなどのアドバイスを行ってきたところ。今後は海水温や海流による影響等、様々な可能性について考慮しつつ調査を実施してまいりたい。

○青森市中央卸売市場の建替えなど、今後の整備状況はどのようになっているのか。

⇒ 老朽化施設等の改善対策として、緊急性や耐用年数等も考慮しながら順次改修・更新を行うこととしている。

○中をきれいにするだとか、においをとるなどして観光客が見に来られるような市場にしてほしい。他都市の市場を視察するなどして努力してもらいたい。

⇒ 施設を新しくすればいいというものでもなく、市場を使う人が使いやすいようにしなければならないことは承知しているので、引き続きご指導・ご意見をいただきたい。

○令和4年には、一般廃棄物最終処分場の土曜日に関場時間が延長されているが、期間限定でも構わないので令和5年も延長して欲しい。

⇒ 現在、破碎選別処理施設の運転再開の時期は未定であることから、令和5年度においても引き続き開場時間を延長する予定。

○ホタテの稚貝不足のため、来年の半成員の出荷数量が例年の3割程度となる見込みである漁業生産を継続するためにも、青森市には過去のホタテガイへい死被害と同様な支援をお願いしたい。

⇒ 昨年5月の調査では、特に陸奥湾の西湾において稚貝付着数が少ない結果となっていたことから、主に東湾の漁業者等から稚貝の融通を行ってきたものと伺っている。

令和4年の稚貝不足の原因については、県によると、海水温等の影響で大規模産卵の発生海域が少なかったことや、親貝となる成員が不足していること等とされていること

から、漁業者及び漁業協同組合が継続的、安定的に生産ができる環境を整えることができるよう、母貝確保等の支援策を検討してまいりたい。

○東湾から稚貝を融通してもらおうと言っても、青森市と比較して規模の小さいところが多く、そういったところから稚貝を融通してもらうのは難しい。

⇒ 他町村と比べても西湾が特に厳しい状況であること、他町村の漁協と連携するなどして努力していただいていることは理解しており、県と漁協の橋渡しをすることが市の役割でもあるので、しっかりやらせていただく。

○ホタテの残渣を陸に上げて処分しているが、過去には海に戻していた。過去にホタテの大量へい死があった後何年かはナマコや天然の稚貝が大量発生することがあった。残渣は海に戻した方がいいのではないかと。そうなれば、市にも負担はかからないし、私たちも処分場まで運搬する手間や経費がかからなくなる。他の地域でも海がきれいになりすぎた結果水揚げが減ってしまったという話を聞いている。自然のサイクルを壊してしまうようなやり方を続けていては、漁師は生活できなくなってしまう。ただ取り締まるだけではなく、そういったことも考えてもらいたい。

⇒ 海への投棄は海上保安部で取り締まっているが、そちらもルールがあってそれに則って取り締まっている。これについては水産庁と海上保安庁に対してルールの見直しを含めて働きかけていかなければならないので、市や県から働きかけていきたい。

○稚貝不足に関連して、全国的に海水が酸性化している傾向があり、ホタテが貝を形成するのがうまくいかなくなっているのではないかと。市の方で下水の処理能力を調整したり、水質の調査などをしてもらえないか。

⇒ 瀬戸内海の方では下水の量を調整するなどの方法でプランクトンの数を増やしたと聞いている。下水の担当課の者が今日は不在だが、どのようなやり方があるのか調べた上でまたご報告させていただきたい。